NISE RESEARCH SNAPSHOT No.59 2010年06月

特別支援学校（肢体不自由）の教員の専門性を高めるためには

【研究を行った背景と目的】

特別支援学校（肢体不自由）の現在の状況で，以下の二つの特徴的なことがあります。

①在籍する児童生徒の障害が重度･重複，多様化している。

②特別支援学校の設置・整備計画が進められる中で，小規模の肢体不自由部門を有する特別支援学校が急増している。

さらに，教員の異動に伴い各特別支援学校では，専門性を確保し向上させることが難しい状況を抱えています。こうした状況の中だからこそ，肢体不自由教育における教員の専門性を明確にし，学校組織として専門性の向上を図ることが重要です。本研究では，学校内人材育成（ＯＪＴ：On the Job Training）を主な対象として，以下のことを目的としました。

（１）肢体不自由にかかわる教員の専門性とは何かについて明確にする。

（２）その教員の専門性の向上のためのモデルを提案する。

【研究結果】

教員としての基盤となる専門性の上に，特別支援教育の専門性，さらには肢体不自由教育の専門性があるという構造が認められました。

特別支援学校（肢体不自由）としての専門性　＜一部内容抜粋＞

肢体不自由児・重度・重複障害児の教育にかかわる教員の専門性

・医療との違いを明確にして教育的視点を明示できること・肢体不自由教育に関する様々な指導法を学ぶこと（姿勢や身体の動きの指導・摂食指導・情報手段活用等）・多様な教育的ニーズへの対応（大学進学～医療的ケア）・実践を省察する姿勢　等

特別支援教育にかかわる教員の専門性

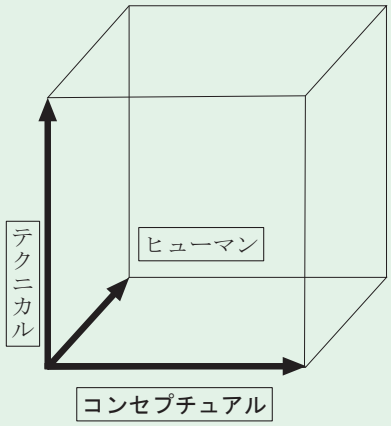
・「障害を変えよう」ではなく「愛情・生きる力」を教えること・自立活動と教科の関連・教育の内容を教える際の展開力・子どもを伸ばすために必要な人と手を組むこと（チームティーチングや他職種・機能のコーディネート）・社会とのコーディネーター・障害に関する必要最小限の知識・実態把握の力・課題設定の力・発達の全体像を描けること・実践を省察する姿勢　等

教員として基盤となる専門性

人間とかかわる姿勢・人間形成・子どもを伸ばすこと・教科の専門性・教育課程の実行（学校経営計画・学習指導要領に基づく）・生徒指導の基礎基本・学級経営・実践を省察する姿勢　等

特別支援教育の専門性は，子どもを伸ばすこと，教科の専門性，生徒指導，学級経営など「教員として基盤となる専門性の要素を障害のある子どもに対して提供する」ことであり，そのために必要な力量が求められます。

教員の力量を示す３つの側面＜立体的な構造図＞



専門性に関する要素は、以下の３つの側面でとらえられ、立体的な関係であると考えます。

【目にみえる実践的技量（テクニカル）】
- 教職や教科の専門的知識と指導技術
- 科学的研究法や専門を支える教養
- 言葉や文字だけではなく適切なメディアを活用する表現能力
- 経験や研修を通じての教育指導技術の蓄積

【内面的な思考様式（コンセプチュアル）】
- ものの見方（広い視野、先見性）
- 認識的側面（創造力、分析力、論理性、構成力、応用力）
- 省察（reflection）と熟考（deliberation）

【総合的な人間力（ヒューマン）】
- 人間理解（カウンセリングマインド）　・感性
- 対人関係能力（コミュニケーション能力、社会性）
- 協同性　（協調性）
- 責任感、使命感（リーガルマインド（法的感覚）、自律性）

【研究結果からの提言】

－専門性向上を図るために学校現場に求められる重要な視点－

1．ＯＪＴを生かした研究の工夫

（1）授業研究の充実のための例

授業研究の効果をより高めるためには，教員の力量の中でも「内面的な思考様式（コンセプチュアル）」の側面を活用することが重要です。

①全教員が１年間に研究授業を２回行う
②ワークショップ型の研修
③演習型の研修

（2）教員のキャリア（経験や役割）に応じた校内研修の例

ＯＪＴのメリットは，業務をしながら学びあえること，現場の状況に合わせて研修の課題や内容を臨機応変に設定できることです。

①校内の教職員が研修会の講師となって力をつける
②教員の経験や役割に応じて校内研修の内容を構成する

2．学校経営・学校運営の工夫

（1）校長のリーダーシップの発揮による組織運営の工夫

教員が個人の専門性を高めるには，学校としてそれを支えるシステムを意図的に構築することが重要です。

①学校長のリーダーシップの発揮
②学校の「機能」を発揮しやすい組織づくり
③人材育成，人材活用を効果的に進める組織運営

3．他機関や他職種との連携・協働

（1）教員のアイデンティティーを明確にすること

他職種と連携・協働するためには，自他の責任や役割を理解し，尊重し合える関係が基本です。

①子どもにとってのジェネラリストであるという自覚

（2）外部の評価を活用すること

教員の専門性を外部から評価してもらい，教員自身のモチベーションを高めていくことが大切です。

①第三者としての外部の専門家の見方を活用する
②保護者や地域からの外部評価を活用する

【関連情報】

本研究の研究成果報告書では、**「特別支援学校(肢体不自由)における教員の専門性向上のための実践モデル」**として以下の７つの実践及び調査結果を紹介しています。

（1）授業改善シートの活用（教師のふり返りを促す工夫）－京都市立呉竹総合支援学校－
（2）校内組織を改編して授業力向上を図る－千葉県立桜が丘特別支援学校－
（3）外部の専門家との組織的な連携･協力による教員の専門性の向上－東京都立城北特別支援学校－
（4）教員の専門性自己評価シートの活用－北海道肢体不自由教育専門性向上セミナー事務局－
（5）北海道特別支援学校（肢体不自由）「教員の専門性に関する自己評価シート」に関する調査＜１＞
（6）北海道特別支援学校（肢体不自由）「教員の専門性に関する自己評価シート」に関する調査＜２＞
（7）リフレクション・シートの活用－特別支援教育専門研修での試用－

本リーフレットは，研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名(研究期間)】

専門研究B「肢体不自由のある子どもの教育における教員の専門性向上に関する研究－特別支援学校（肢体不自由）の専門性向上に向けたモデルの提案－」
（平成20年度～平成21年度）

【研究組織／問い合わせ先】

研究代表者：長沼　俊夫（教育支援部総括研究員）
e-mail　naganuma@nise.go.jp
研究分担者：笹本　　健（教育支援部上席総括研究員）
金森　克浩（教育研修情報部総括研究員）
徳永亜希雄（教育支援部主任研究員）
齊藤由美子（教育研修情報部研究員）
（20年度）　大崎　博史（教育研修情報部主任研究員）
品川　浩也（平成21年度　研究研修員）
田城　聡子（平成21年度　研究研修員）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（National Institute of Special Needs Education; NISE）
〒239-8585　神奈川県横須賀市野比5-1-1 TEL:046-839-6803　URL:http://www.nise.go.jp/